

令和2年6月22日
建設環境委員会資料
企業局

隠岐大峯山風力発電所の民間企業への譲渡について

1. 隠岐大峯山風力発電所の概要

- ・所在地 隠岐の島町西村大峯山山頂
- ・施設 最大出力 600kW×3基(現在2基)
- ・H16.2.1 運転開始／建設事業費 8.4 億円
- ・3号機は増速機が故障し、修理費用の回収が見込めないため H29. 10 撤去

2. 民間企業からの譲渡申し入れ

隠岐大峯山風力3号機跡地付近に大型風車の建設を計画する民間企業より、この計画の一環として、企業局に対し既存1・2号機を一元管理したい旨の譲受要望あり

3. 経営の状況

運転開始以降、雷や乱流等、離島特有の厳しい気象条件による想定以上の被害により修繕費用が増加し、R元年度末で▲5.8 億円の累積赤字

FIT 単価の終了 (R6.5) や施設の老朽化に伴い修繕費が増加し、今後も単年度収支は赤字基調が続く見込み

4. 企業局としての方針

現時点で民間企業に一定の売却代金で譲渡することが経営上有益と判断し、譲渡に向けて手続きを進める



島根県企業局が運営する隠岐大峯山風力発電所。二川ホールディングスが風車2基（左と中央）を買い取り、新たに風力発電事業に乗り出す。右の風車は既に撤去されている＝隠岐の島町（資料）

島根県 隠岐の風力発電 民間譲渡 兵庫の企業 3基で発電へ

島根県企業局が隠岐大峯山風力発電所（島根県隠岐の島町）で実施する発電事業から撤退し、再生可能エネルギー発電事業の「二川ホールディングス」（兵庫県加古川市）が同発電所の風車2基を譲り受けて、新たに風力発電事業を始めることが22日、関係者への取材で分かった。同社は風車

1基を新設し、計3基で発電を開始する。県企業局は年内にも同社に譲渡する。同社は太陽光発電を手掛けており、風力発電への参入は初めて。同社担当者は取材に対し「風の条件が良く、少ないリスクで運営できるため建設を判断した」と述べた。新設する風車は雷などに強く、支柱の高さ

78メートル、羽根の直径82メートルを予定する。県企業局によると、隠岐大峯山発電所は再生可能エネルギー促進の一環で水力以外に企業局が手掛けた初の事業。2004年2月に3基（出力計1800瓩）で運転を始めたものの、うち1基は雷や乱流による故障で修理費の回収が見込め

ず、廃止となった。同発電所の収支は、19年度末で5億8千万円の累積赤字となっている。

県企業局は、再生可能エネルギーの固定価格買い取り制度（FIT）の終了や老朽化に伴う修繕費の増加で、今後も赤字基調が続くと懸念。昨年11月、同社から申し入れがあり、一定の売却代金で風車2基を譲渡することが経営上有益と判断した。

（木幡晋介）



隠岐大峯山風力発電所 関係図

